

作成	交通局事業管理部	資料
提出	平成28年 4月28日	交 - 1
理由	参考資料として提出	

路面電車事業の概要

目 次

1	札幌市路面電車活用計画	
(1)	札幌市路面電車活用計画の概要	1 頁
(2)	サービスアップの取組み	2 頁
(3)	経営の効率化	3 頁
2	収支状況と利用者負担の見直しについて	
(1)	平成28年度予算の概要	4 頁
(2)	過去5年間の傾向	5 頁
(3)	利用者負担の見直しについて	6 頁
3	運賃制度	
(1)	運賃の概要	7 頁
(2)	割引制度	8 頁
(3)	乗車券等	9 頁
(4)	他事業者運賃比較	10 頁
4	利用状況等	
(1)	路面電車利用実態調査の概要	11 頁
(2)	都心線開業後利用状況等調査の概要	12 頁
(参考)	沿革	参考 1 頁
	輸送概要	参考 2 頁
	利用促進の取組み	参考 3 頁
	乗車人員の推移	参考 4 頁
	路線図	参考 5 頁

平成28年4月

札幌市交通局

札幌市路面電車活用計画（ループ化編）の概要

○ 計画策定にあたって

路面電車の活用方策について市民と共に検討

- ・路面電車は、平成 17 年に存続を決定し、平成 22 年 3 月に策定した「札幌市路面電車活用方針」について、フォーラムや全区におけるパネル展の開催等により、市民との情報の共有化や意向の把握に努めた。

「札幌市路面電車活用計画 ループ化編」の策定

- ・平成 24 年 4 月、市議会での議論を経て、サービスアップの具体的な取組の内容や、経営の健全化に向け、経営の効率化や利用者負担のあり方などの費用負担の整理について取りまとめ、「札幌市路面電車活用計画 ループ化編」を策定した。
- ・計画の策定にあたり、札幌市営企業調査審議会でご議論いただいております、また、パブリックコメントでのご意見も参考とした。
- ・この計画の取組を実施するため、札幌市軌道運送高度化実施計画を策定し、市議会での決議を経て、平成 25 年 4 月に国土交通大臣の認定を受けた。

○ 主なサービスアップの具体的内容

路線のループ化

- ・利用者の利便性とまちづくりへの観点から、新たに整備する駅前通では、電車が歩道側を走行する「サイドリザベーション方式」を採用するとともに、新停留場（狸小路停留場）を新設。

新型低床車両の導入

- ・運転開始後 50 年以上を経過した老朽化車両の更新に併せ、新型低床車両をループ化の実現までに 3 両導入。

既設線の機能向上

- ・停留場のバリアフリー化。
- ・老朽化したレールを更新し、振動等を抑えるレールへの改良（制振軌道化）
- ・ICカード「SAPICA」の導入。
- ・運行情報の配信など、旅客案内システムの導入（情報利活用システム）

P. 2
参照

○ 経営の健全化に向けて

経営の効率化

- ・市が施設等を保有し、別の事業者が運行する上下分離制度の導入を含めた持続可能な経営形態への見直しを図るため、経営、安全の面から、事業運営のあり方の検討を進める。また、現行経営体制での内部効率化を実施し、15%程度の人件費の削減を行う。

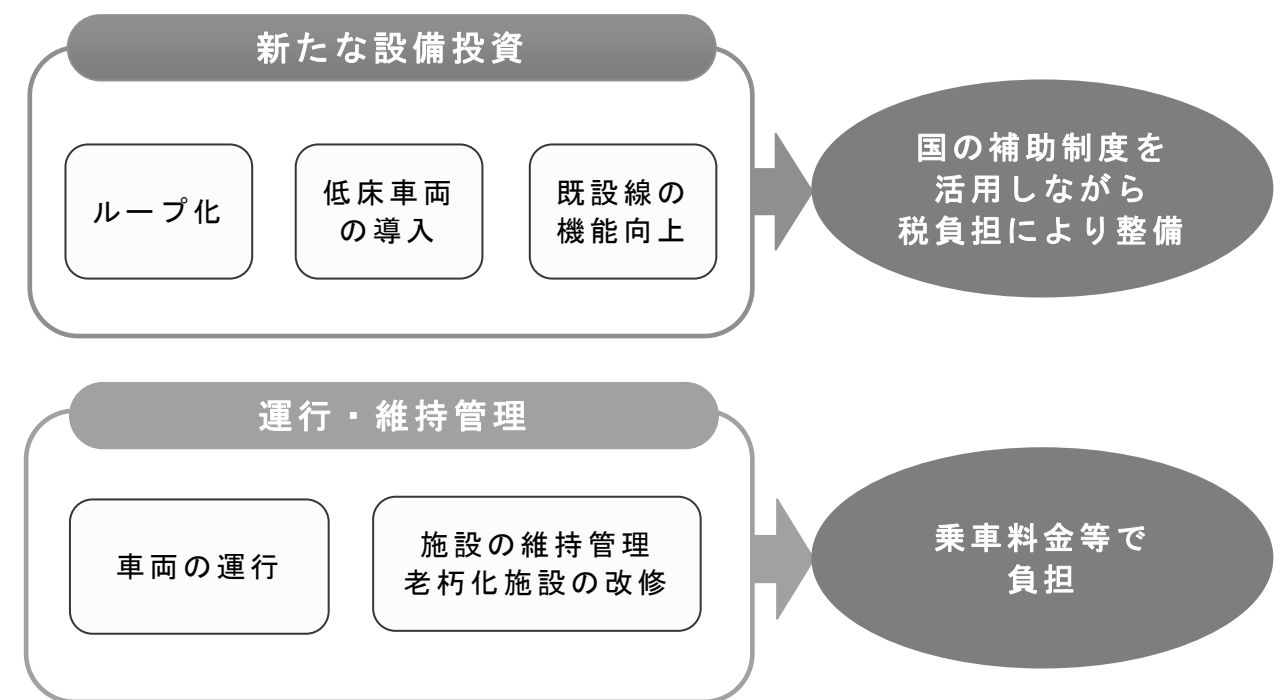
P. 3
参照

利用者負担のあり方

- ・収支の見通しや、他の交通機関の運賃水準を踏まえると、15%程度の見直しを検討する必要があるため、より利用しやすい運賃制度や適正な運賃水準について市営企業調査審議会に諮問するなど、運賃制度全般の見直しを進める。

新たな設備投資に対する費用負担

- ・ループ化や低床車両の導入などの新たな設備投資は、国の補助制度を活用しながら、税負担により整備を進める。



サービスアップの取組み

路線のループ化 ※

【H27.12 の都心線開業によりループ化】

- ・サイドリザベーション方式による制振軌道新設
- ・狸小路停留場の新設及び西4丁目、すすきの停留場の改良
- ・都心部の乗継割引適用経路拡大
- ・始発時間の見直し

始発：中央図書館前発（外回り）：6:08→6:00

終発：西4丁目発（内回り）：23:10→23:25

新型低床車両の導入 ※

【現在までに3両導入】

- ・バリアフリー対応の低床車両による利便性向上

停留場のバリアフリー化 ※

【西4丁目、狸小路、すすきの停留場対応済み】

- ・停留場の拡幅、嵩上げ、スロープ設置

制振軌道化 ※

【全区間の約65%整備済み】

- ・老朽化した軌道更新、振動や騒音の抑制による安全性、快適性の向上

今後も計画的に
導入・整備を進め
ていく

ICカード「SAPICA」の導入

【H25.6：路面電車事業での供用開始（定期券以外）】

【H26.2：路面電車事業での定期券サービス供用開始】

情報利活用システム導入

【H27.4 供用開始】

- ・市電車両にGPSを装備し、位置情報を集約
- ・各停留場にモニターを設置し、電車（低床車両を区別）の現在地や接近状況などの運行情報を表示
- ・パソコンやスマートフォンなどでも閲覧可能

※札幌市軌道運送高度化実施計画掲載事業

経営の効率化

○これまでの効率化策

・整備業務の一部委託化等（平成 12 年度～26 年度）

点検整備業務、定期検査業務等の委託化により、技術部門職員 18 人を削減

年度	電車整備工	技術職員	合計
平成 11 年度	23 人	7 人	30 人
平成 26 年度	0 人	12 人	12 人

・非常勤職員の活用拡大等（平成 17 年度～26 年度）

非常勤職員への転換により、正職員運転手 26 人を削減

年度	正職員運転手	非常勤運転手	合計	非常勤比率
平成 16 年度	53 人	12 人	65 人	18.5%
平成 26 年度	27 人	38 人	65 人	58.5%

※推移は下記折れ線グラフのとおり

○これまでの効率化による効果

・総人件費の推移

（非常勤職員報酬を含む）

（11 年度）1,115 百万円

⇒（26 年度）686 百万円

（▲429 百万円、▲38.5%）

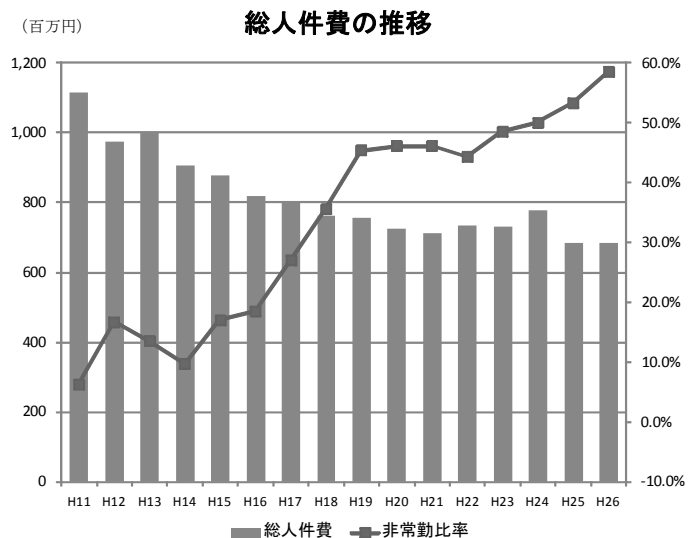
・人件費比率の推移

（経常収支支出に占める人件費の割合）

（11 年度）65.6%

⇒（26 年度）47.0%

（▲18.6%）



○今後の効率化について

今後も引き続き、安全運行の確保に最大限留意しながら非常勤運転手の割合を高めていくことにより、更なる人件費の削減を進めていく。

また、持続可能な経営形態とするため、施設・車両の保有整備主体（㊦）と旅客輸送主体（㊧）を分離し、それぞれが経営を行っていく上下分離制度の導入準備を進めている。札幌市では、経営効率化や利用者サービスの向上を図るとともに、路面電車をまちづくりを活用していくこととしており、上下分離制度は、これらの両立が可能な経営手法であることから、平成 30 年代前半の導入を目指し、引き続き検討を進めていく。

平成28年度予算の概要

2 収支状況と利用者負担の見直しについて-(1)

(単位：百万円、税込)

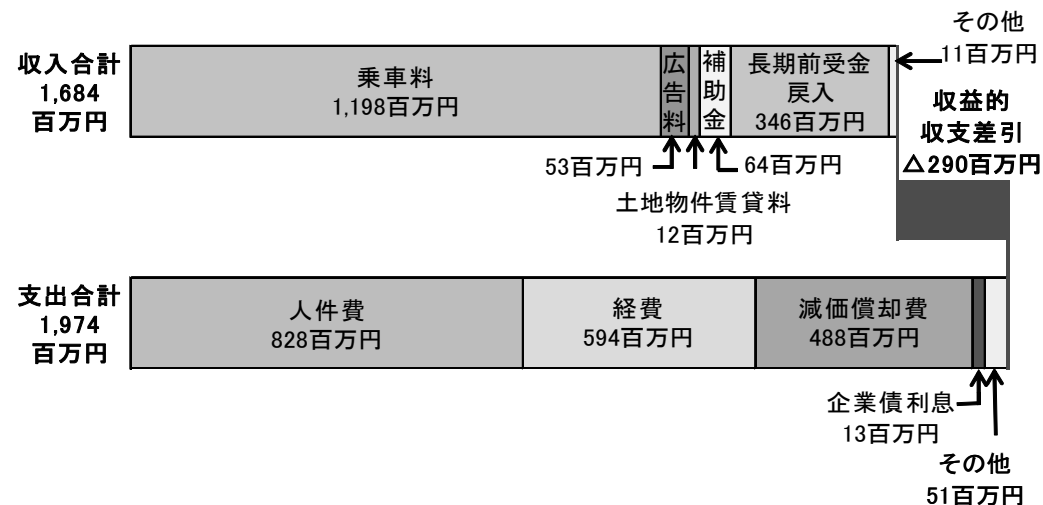
項目		27年度予算	28年度予算	差引 (28-27年度)
経 常 収 支	営業収入 (乗車料・広告料等)	1,229	1,273	44
	営業支出 (人件費・経費)	1,608	1,910	302
	営業収支 (本業による利益)	△ 379	△ 637	△ 258
	営業外収入 (補助金等)	232	411	179
	営業外支出 (支払利息・消費税等)	68	54	△ 14
	営業外収支 (本業以外による利益)	164	357	193
	予備費	10	10	0
	経常収支	△ 225	△ 290	△ 65
収益的収支		△ 225	△ 290	△ 65
資 本 的 収 支	資本的収入 (企業債・補助金)	250	752	502
	資本的支出 (建設改良費等)	423	943	520
	資本的収支差引	△ 173	△ 191	△ 18
当年度分損益勘定 留保資金等		75	208	133
当年度資金過不足額		△ 323	△ 273	50
過年度分資金過不足額		765	442	△ 323
累積資金過不足額 (資金残)		442	169	△ 273

※27年度予算は当初予算（繰越含まない）である。

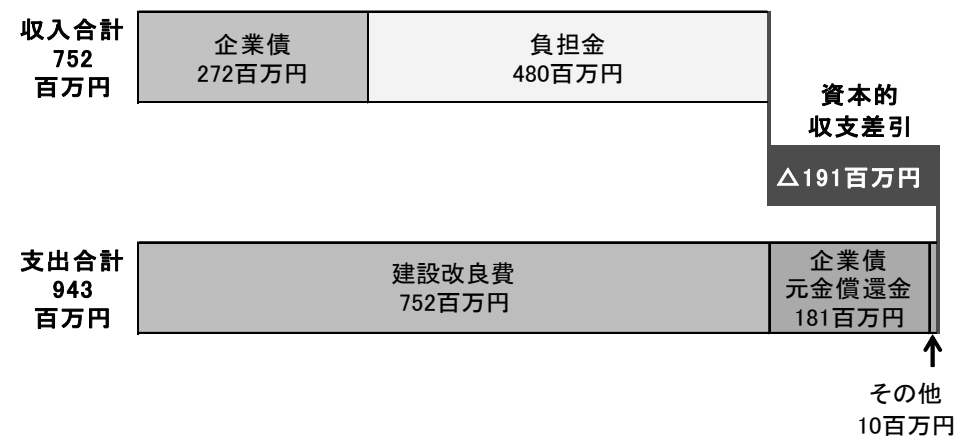
（過年度分資金過不足額は平成26年度決算額）

※28年度予算の過年度分資金過不足額欄は決算見込額である。

●収益的収支



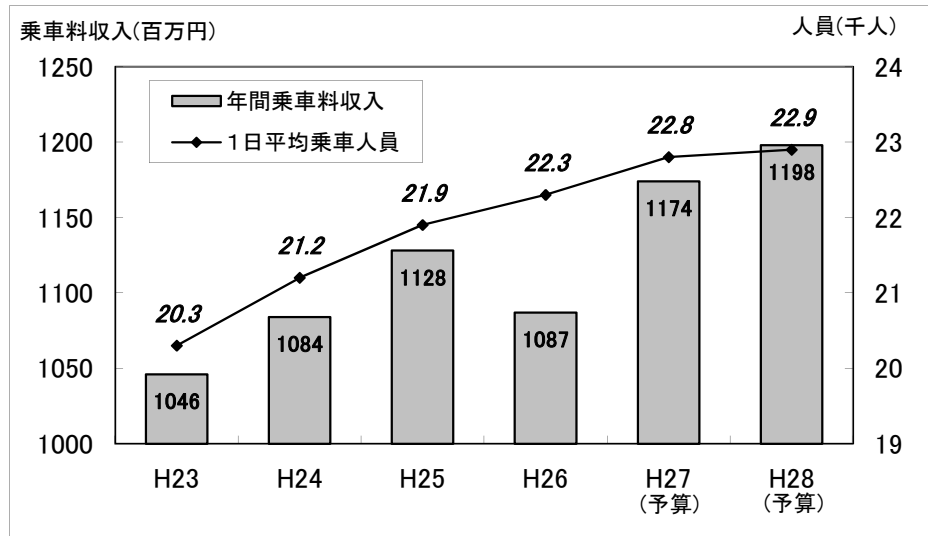
●資本的収支



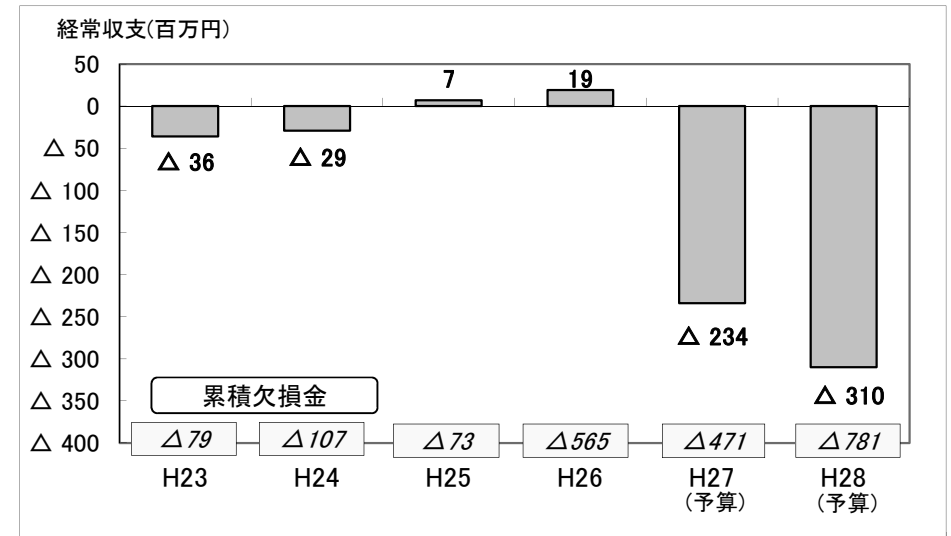
過去5年間の傾向

2 収支状況と利用者負担の見直しについて-(2)

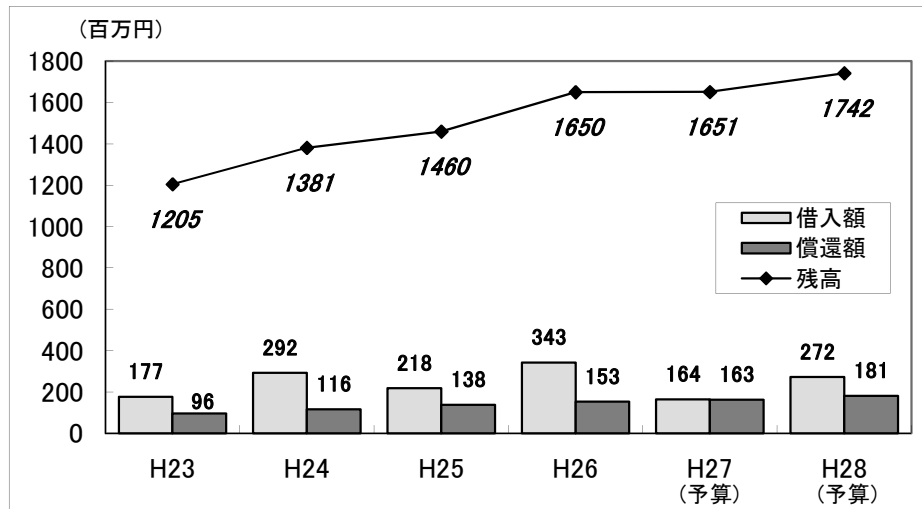
(1) 1日平均乗車人員及び年間乗車料収入



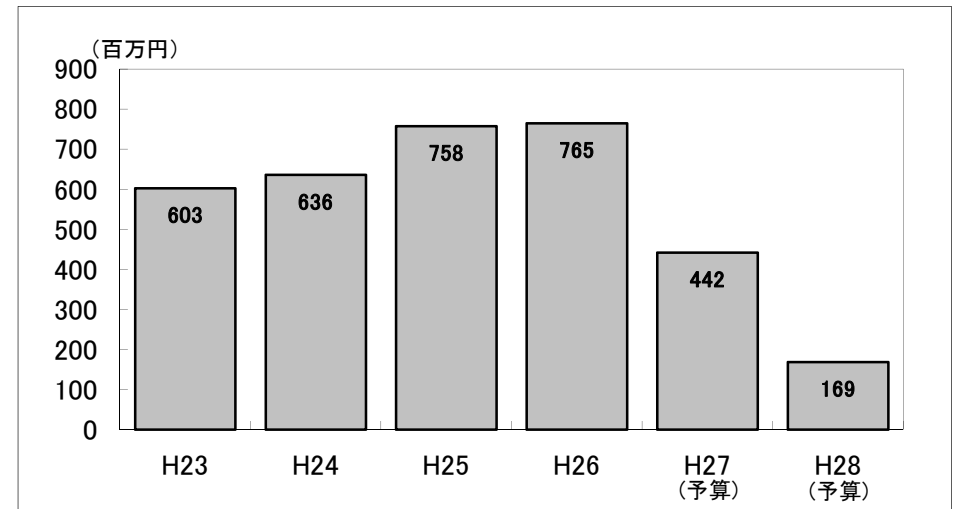
(2) 経常収支と累積欠損金 (税抜)



(3) 企業債 (借入額・償還額・残高)



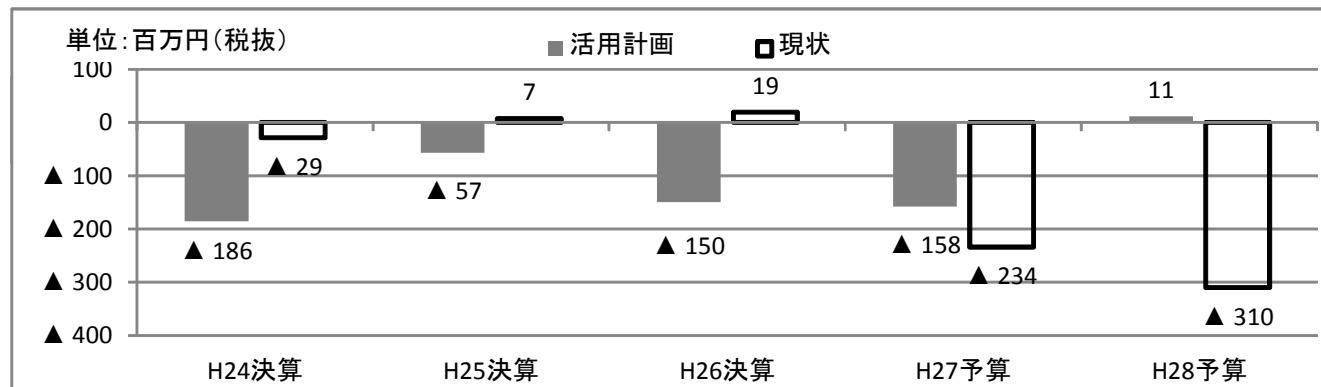
(4) 資金の状況



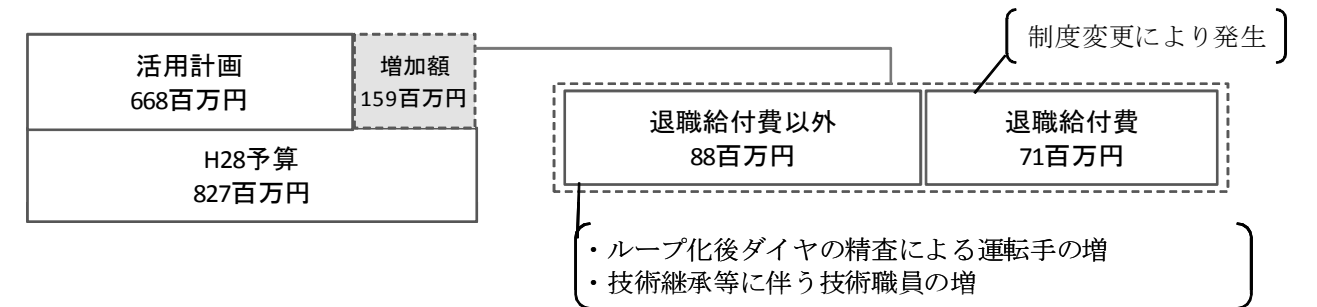
利用者負担の見直しについて（活用計画と平成28年度予算との比較）

(1) 経常収支の推移（平成24～28年度）

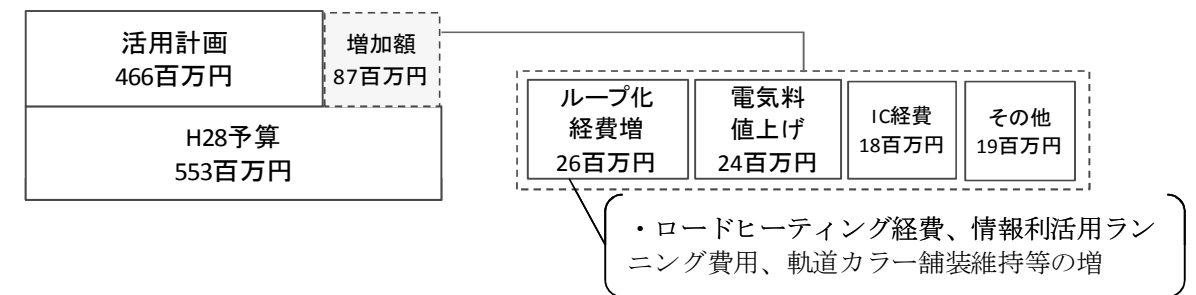
○平成24～26年度までは、乗車人員の好転により計画を上回り推移していた。
 ○平成27年度からは、運賃改定が実施できていないこと、計画上見込んでいなかった経費の発生などにより大幅に悪化している。



◇人件費 ⇒ 計画からの人員増の影響などにより 1億5,900万円増加



◇経費 ⇒ 電気料値上げの影響や当初見込んでいなかった経費発生により 8,700万円増加



(2) 活用計画と平成28年度予算との比較

単位：百万円（税抜）

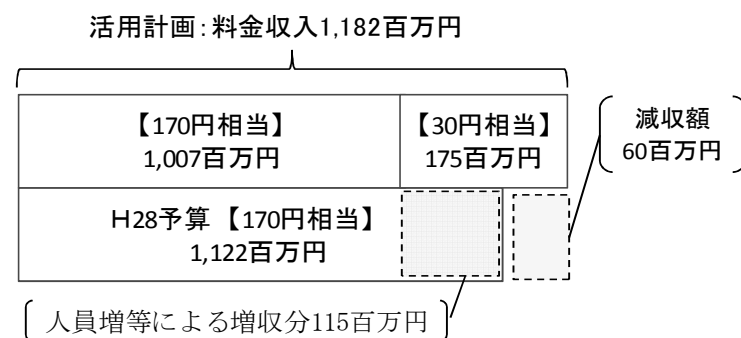
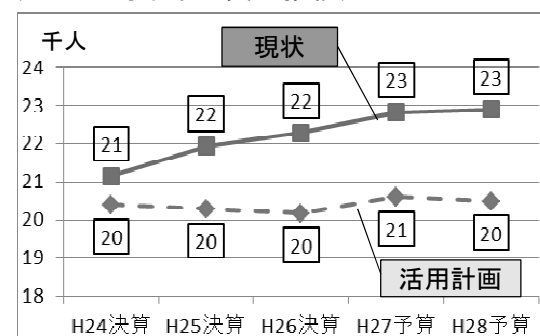
	活用計画	28年度予算	28予-活用
経常収入計	1,300	1,258	▲42
料金収入	1,182	1,122	▲60
広告料等	52	72	20
一般会計補助金	66	64	▲2
経常支出計	1,289	1,568	279
人件費	668	827	159
経費	466	553	87
減価償却費	119	142	23
企業債利息等	36	46	10
差引	11	▲310	▲321

※28予算の減価償却費は、長期前受金（資本的補助金により取得した資産の償却費分）を控除した金額

(3) 活用計画からの悪化要因

◇料金収入 ⇒ 計画より乗車人員が増えているものの、運賃改定の遅れにより計画から 6,000万円減少

〈一日平均乗車人員の推移〉



(4) 利用者負担の見直しについて

○「路面電車活用計画」上、まちづくりへの活用を図る一方、経営の健全化に向けて、利用者負担のあり方として、15%程度の運賃水準の見直しを検討する必要があるとしている。

○平成28年度予算の経常収支については、活用計画に比べ、悪化しており、今後、計画で見込む将来的な単年度黒字など、収支の改善を図り、健全な経営を目指していくためには、運賃改定の早期実施が必要。

○運賃改定による増収額については、今後とも見込まれる次の増加費用に充当する

- ・ループ化後のサービス水準の維持を図るための費用
- ・施設・車両等の老朽化に伴う維持費用
- ・停留場のバリアフリー化に伴う費用
- ・電気料金値上げに伴う動力費・電気料 など

運賃の概要

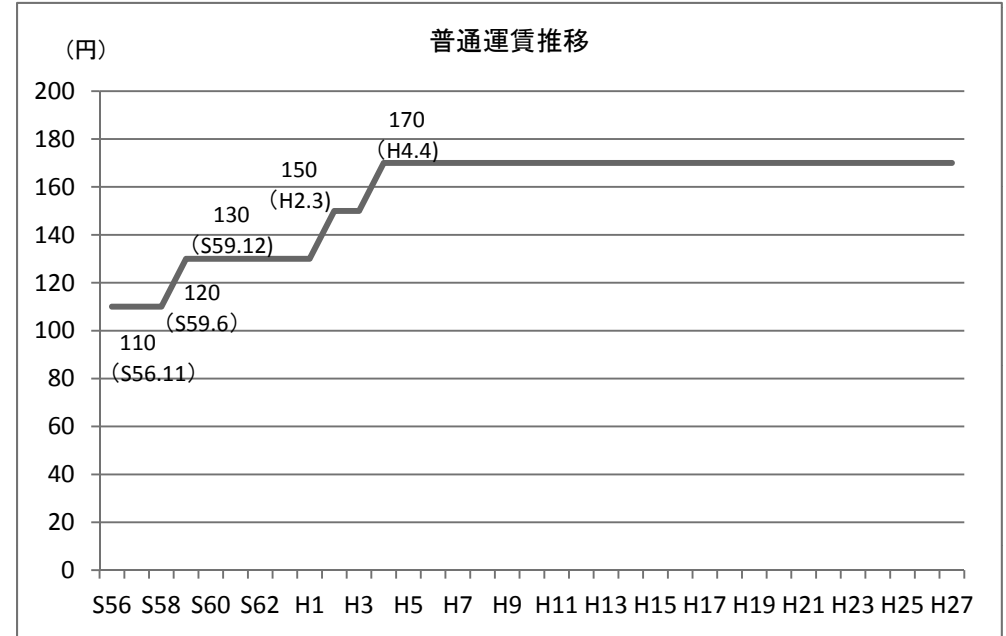
3 運賃制度-(1)

○ 現行電車運賃（抜粋）

(単位：円)

種 別		単 独 運 賃	乗 継 運 賃 (地下鉄1区)	
定 期	普通	大人	170	290
		子ども	90	150
	特殊	大人	90	150
		子ども	50	80
	外 貨切	普通車	15,740	
		低床車	18,880	
どサンこパス (土日祝・年末年始に大人1名 と子ども1名が1日乗り放題)		310		
定 期 1 か 月	通勤	7,550	12,710	
	通学(大人)	5,250	8,090	
	通学(子ども)	3,150	4,510	

○ 過去の運賃改定概要



(単位：円)

	昭和56年 11月6日	昭和59年 6月1日	昭和59年 12月1日	平成2年 3月3日	平成4年 4月1日	平成26年 10月1日
普通運賃 (改定額)	110 (20)	120 (10)	130 (10)	150 (20)	170 (20)	170 (0)
定期 運賃	通勤(1か月) (改定額)	4,950 (900)	5,400 (450)	5,850 (450)	6,480 (630)	7,340 (860)
	割引率	25%	25%	25%	28%	28%
	通学(1か月) (改定額)	3,300 (600)	3,600 (300)	3,900 (300)	4,500 (600)	5,100 (600)
	割引率	50%	50%	50%	50%	50%

割引制度

3 運賃制度-(2)

○乗継割引（路面電車事業関連分）

乗継経路	券種	割引額	乗継指定停留場・対象路線	適用方法														
市電 - 地下鉄	定期外	地下鉄大人普通運賃 80 円引き	<table border="0"> <tr> <td>市電</td> <td>地下鉄</td> </tr> <tr> <td>西 4 丁目</td> <td rowspan="3">} [大通（南北線・東西線・東豊線） すすきの（南北線） 豊水すすきの（東豊線）</td> </tr> <tr> <td>狸小路</td> </tr> <tr> <td>すすきの</td> </tr> <tr> <td>中央区役所前</td> <td>— 西 1 1 丁目（東西線）</td> </tr> <tr> <td>西 1 5 丁目</td> <td>— 西 1 8 丁目（東西線）</td> </tr> <tr> <td>静修学園前</td> <td>— 幌平橋（南北線）</td> </tr> <tr> <td>山鼻 9 条</td> <td>— 中島公園（南北線）</td> </tr> </table>	市電	地下鉄	西 4 丁目	} [大通（南北線・東西線・東豊線） すすきの（南北線） 豊水すすきの（東豊線）	狸小路	すすきの	中央区役所前	— 西 1 1 丁目（東西線）	西 1 5 丁目	— 西 1 8 丁目（東西線）	静修学園前	— 幌平橋（南北線）	山鼻 9 条	— 中島公園（南北線）	I C カード：自動適用 磁気カード：自動適用 切符・現金：乗継券購入
	市電	地下鉄																
西 4 丁目	} [大通（南北線・東西線・東豊線） すすきの（南北線） 豊水すすきの（東豊線）																	
狸小路																		
すすきの																		
中央区役所前	— 西 1 1 丁目（東西線）																	
西 1 5 丁目	— 西 1 8 丁目（東西線）																	
静修学園前	— 幌平橋（南北線）																	
山鼻 9 条	— 中島公園（南北線）																	
定期	地下鉄大人普通運賃 80 円引き相当	同上																
市電 - バス	定期外	なし																
	定期	市電大人普通運賃 40 円引き相当	乗継指定停留場 直近（原則同一名）停留場にて乗継															
市電 - 地下鉄 - バス 市電 - バス - 地下鉄 等	定期外	なし																
	定期	地下鉄大人普通運賃 100 円引き相当	地下鉄ーバスの乗継（地下鉄北 1 2 条、自衛隊前、西 1 8 丁目、東札幌、南郷 1 3 丁目、北 1 3 条東、豊平公園駅は乗継指定バス路線なし）や上記の組合せ															

○福祉割引

対象者	割引額
<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳の交付を受けている者及びその同行の介護人 ・療育手帳の交付を受けている者及びその同行の介護人 ・養護施設等で養護、保護等を受けている者及びその同行の付添人 	普通運賃：5 割引き 定期運賃：5 割引き

<参考>福祉助成制度（保健福祉局）

- ・敬老優待乗車証（上限 70,000 円）：市内に住民登録があり、引き続き居住している 70 歳以上の方（一部自己負担あり）
- ・福祉乗車証（無料パス）：身体障害者手帳（1・2 級）、療育手帳（A）、精神障害者保健福祉手帳（1・2 級）、戦傷病者手帳（特別項症～第 3 項症）の交付を受けている方
- ・助成カード（上限 48,000 円）：身体障害者手帳（3・4 級）、療育手帳（B）、精神障害者保健福祉手帳（3 級）、戦傷病者手帳（第 4 項症～第 1 款症[上限 96,000 円]、第 2 款症～第 5 款症）、いつくしみ手帳（大人重度[上限 96,000 円]、大人軽度）の交付を受けている方

乗車券等

3 運賃制度-(3)

券種		内容	
どサンこパス		発売額	310 円
		発売場所	市電車内、大通定期券発売所
		利用条件	土曜・日曜・祝日及び年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日）に、大人 1 名と子ども 1 名が市電を 1 日中、何回でも乗車可能
企画一日乗車券 ホテル販売用路面 電車 1 日乗車券		発売額	310 円
		発売場所	札幌市交通局とホテル販売用路面電車 1 日乗車券の販売に関する協定を締結したホテル内（ホテル側の宿泊プランとして宿泊者限定のため、一般向け発売はしない。）
		利用条件	大人 1 名と子ども 1 名が市電を 1 日中、何回でも乗車可能
貸切	普通車両	料金	1 周以内 15,740 円
		定員	60 名
	低床車両	料金	1 周以内 18,880 円
		定員	71 名（普通車両の 1.2 倍）
カード乗車券 SAPICA (ICカード)		利用可能エリア	札幌圏の地下鉄・バス（ジェイ・アール北海道バス、じょうてつバス、北海道中央バス）・市電
		種類	<ul style="list-style-type: none"> ・無記名 SAPICA ・記名 SAPICA（大人・子ども） ・SAPICA 定期券（大人・子ども） ・福祉割引 SAPICA （大人・子ども／本人・特定介護人・不特定介護人） ・福祉割引 SAPICA 定期券 （大人・子ども／本人・特定介護人）
		ポイント (プレミアム率： 9.1%)	地下鉄の改札機や券売機、バス・市電の運賃箱での SF 利用の 10% を SAPICA ポイントとして付与。たまったポイントは、降車時に支払う乗車料金以上のポイントがある場合、自動的に乗車料金に使用（1 ポイント = 1 円換算）。
その他機能		電子マネー ・ オートチャージ ・ 図書館貸出券	

※ICカード利用率（定期外）
H25 年度：16%（7～3 月平均）
H26 年度：42%
H27 年度：56%（4～2 月平均）
※H29.4 に保健福祉局の助成が IC 化予定

他事業者運賃比較

	運賃制度	キロ程															改定年月日	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
公営	札幌市 (8.9 km)	170 円															H26. 10. 1 (普通運賃据置)	
	函館市	対キロ区間制	210 円		230 円		240 円		250 円								H26. 4. 1	
	東京都 (12.2 km)	均一制	170 円														H26. 4. 1	
	熊本市 (9.7 km)	均一制	170 円															H28. 2. 1
	鹿児島市 (9.4 km)	均一制	170 円															H26. 4. 1
民営	富山地方鉄道 (6.7 km)	均一制	200 円															H26. 4. 1 (普通運賃据置)
	富山ライトレール (7.6 km)	均一制	200 円															H26. 4. 1 (普通運賃据置)
	京阪電気鉄道	対キロ区間制	170 円				240 円				320 円							H26. 4. 1
	阪堺電気鉄道 (14.1 km)	均一制	210 円														H27. 2. 1	
	広島電鉄 (9.8 km)	均一制	160 円															H26. 4. 1
	伊予鉄道 (7.3 km)	均一制	160 円															H26. 4. 1
	長崎電気鉄道 (8.7 km)	均一制	120 円															H21. 10. 1

※ 参考

札幌市内の 他交通機関の運賃	路面電車	地下鉄	バス	J R
	均一 170 円	初乗り 200 円	初乗り 210 円	初乗り 170 円

※バスの運賃は、
一部対キロ区間を除く

○路面電車利用実態調査の概要

1 調査方法等

(1) 調査日

平成 25 年 9 月 26 日 (木)

(2) 調査方法

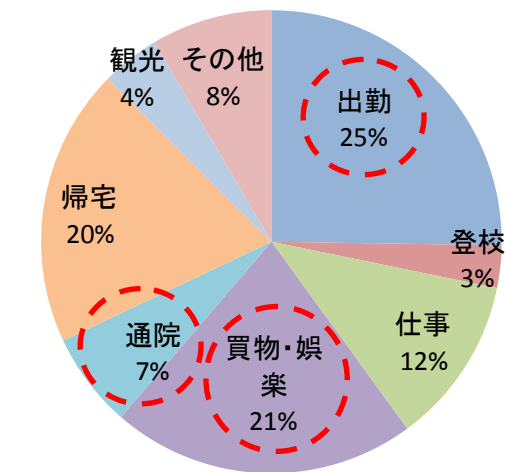
始発から最終電車までの全車両の乗降客を対象に調査票を配布し、降車時に回収。

(3) 回収票数

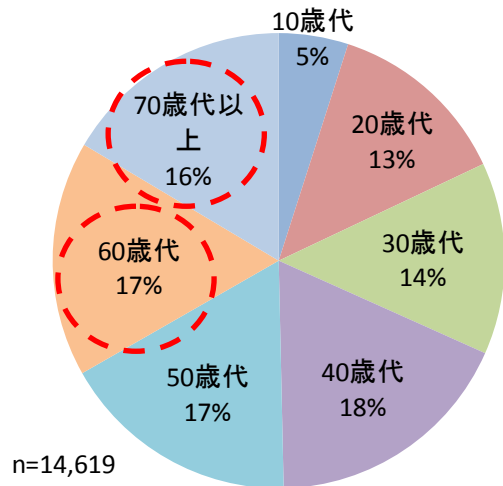
15,126 票 (乗車人数 21,133 人の 71.6%)

2 調査結果

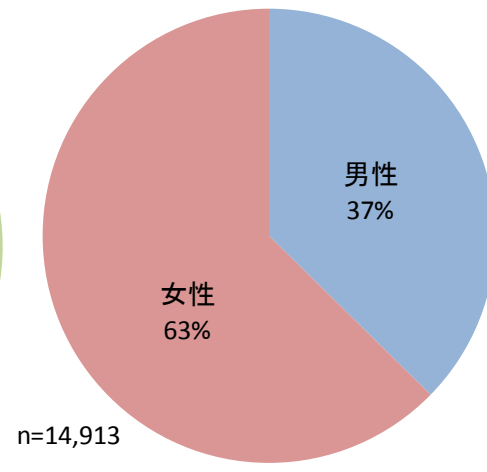
(1) 乗車目的



(2) 年代



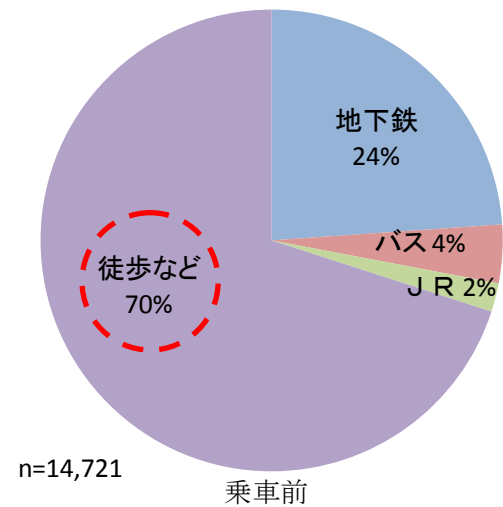
(3) 性別



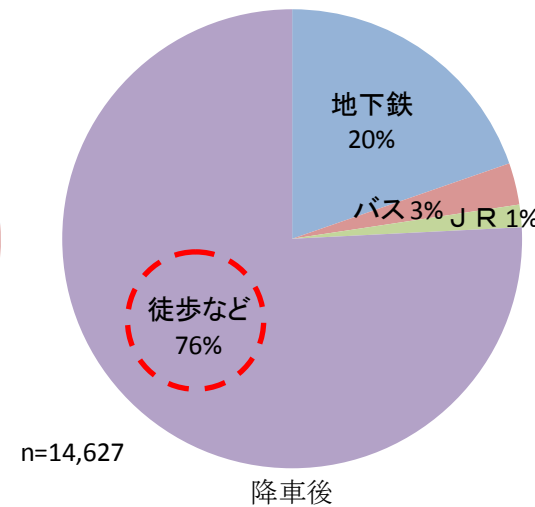
n=15,006

・同時期に行った地下鉄での調査結果と比べると、(1) 乗車目的は「通勤」の割合が低い(地下鉄は 37%) 一方、「買物・娯楽」(同 13%) 「通院」(同 3%) の割合が高い。
 ・(2) 年代別では地下鉄と比べ 60 歳代(同 13%) や 70 歳代以上(同 7%) が多い。
 ・よって、高齢者にもやさしい公共交通機関として、幅広い年代の方に地域の日常生活の足として利用されていることがわかる。

(4) 乗車前と降車後の交通手段



(5) 居住地

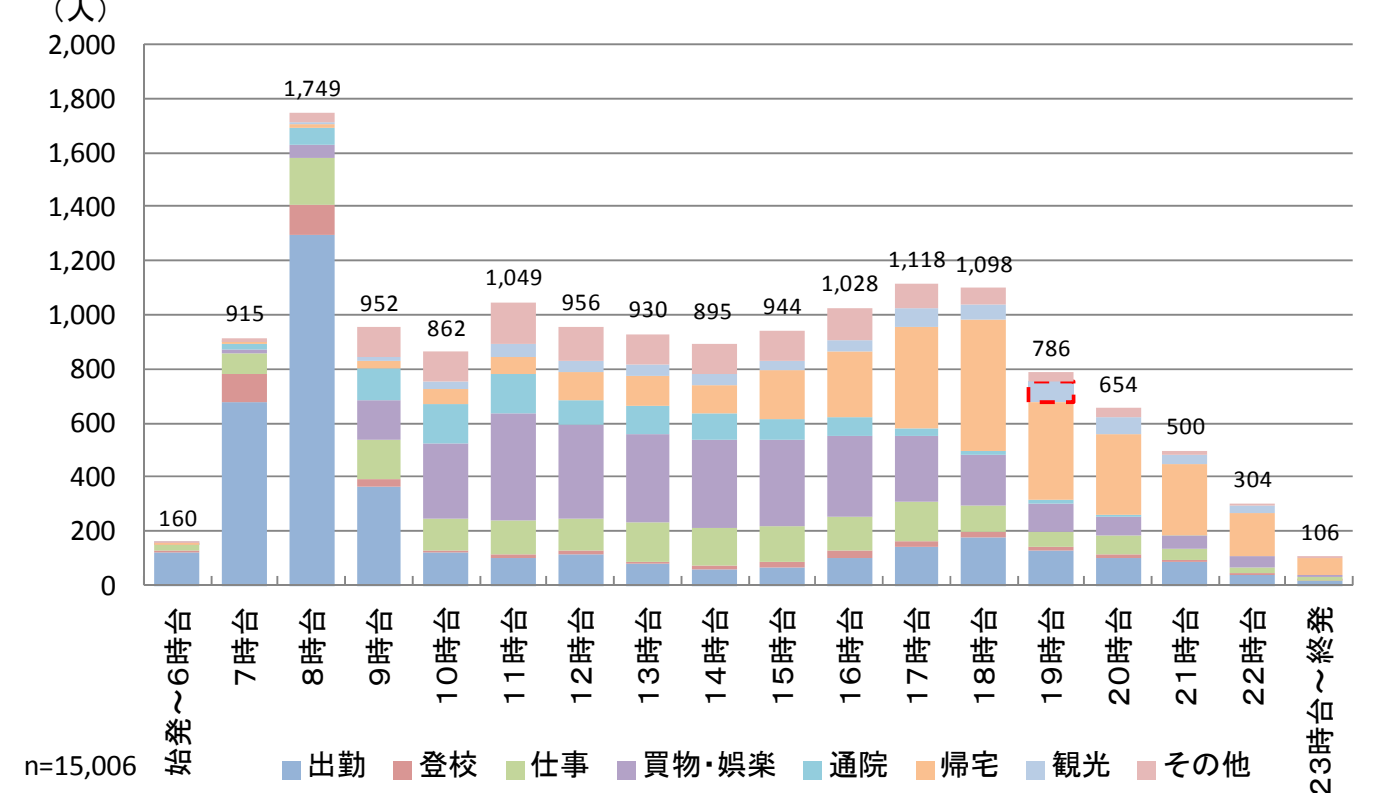


n=14,721

n=14,627

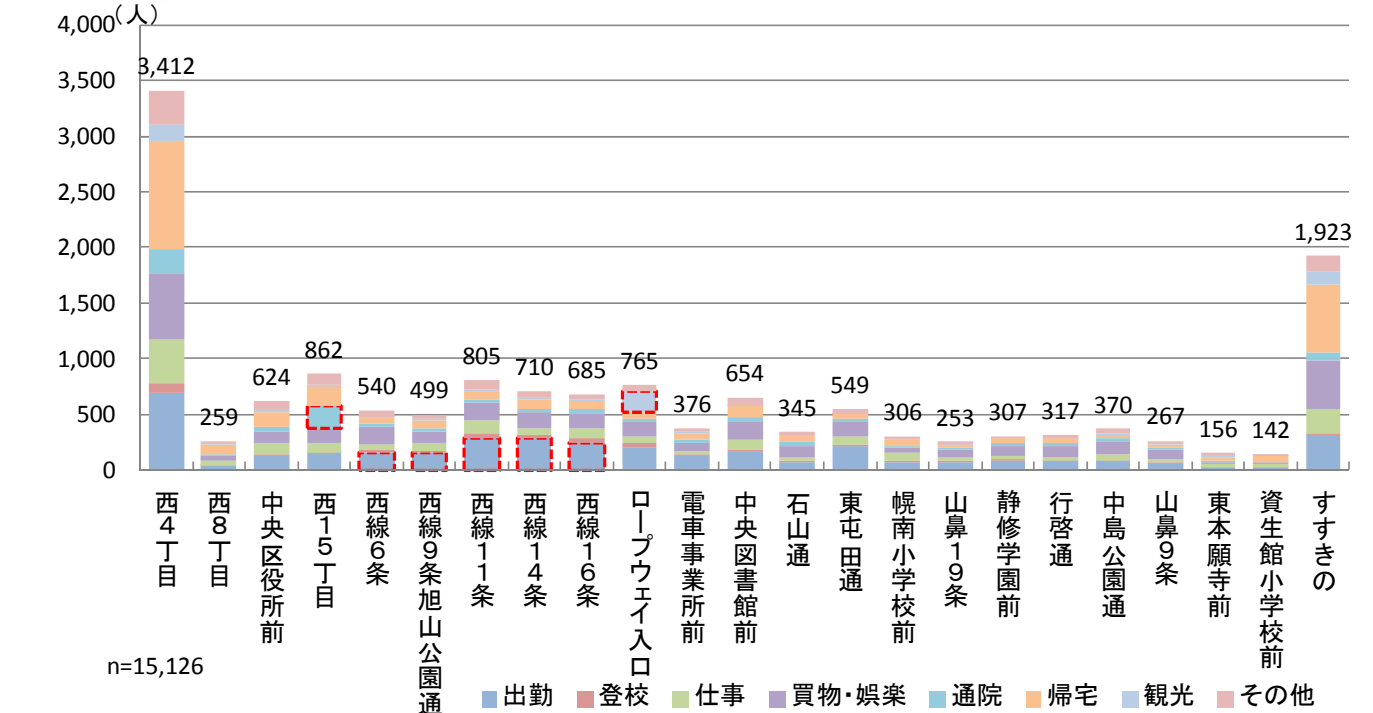
n=15,119

(6) 時間帯別乗車目的



時間帯別に見ると、朝ラッシュ時を除けば、日中の時間帯による波は大きくない。また、観光客のピークは 19 時台であり、藻岩山(夜景)の存在の大きさがうかがえる。

(7) 停留場別乗車目的

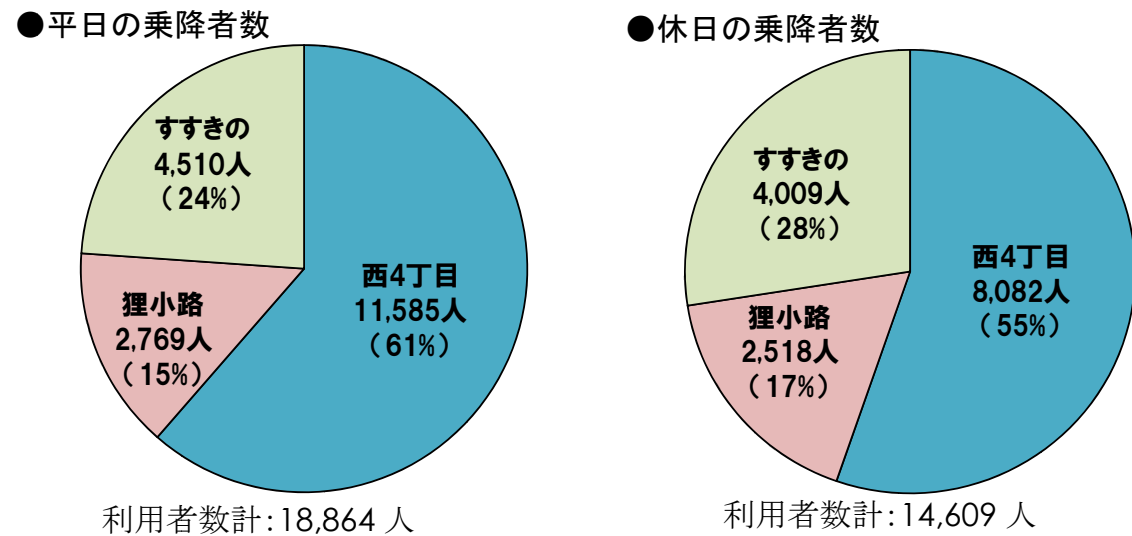


停留場別に見ると、西 4 丁目とすすきのの両電停の乗降者数が突出して多いため各目的別の乗降者数も多くなっているが、各停留場に占める割合という観点では、西 15 丁目の「通院」、ロープウェイ入口の「観光」、西線各停留場からの「通勤」の割合の高さが特徴である。

〇都心線開業後利用状況等調査の概要

1 都心部停留場カウント調査

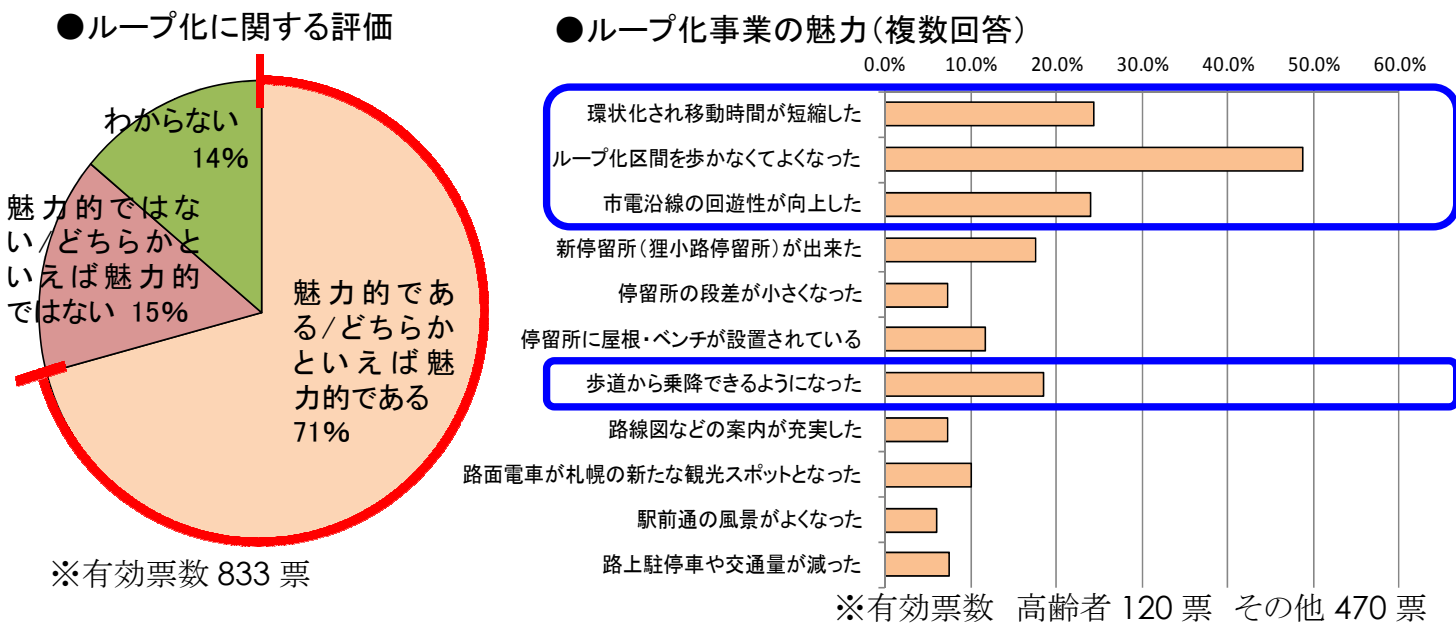
- (1) 調査日
平成 28 年 1 月 24 日 (日)、26 日 (火) の終日
- (2) 結果



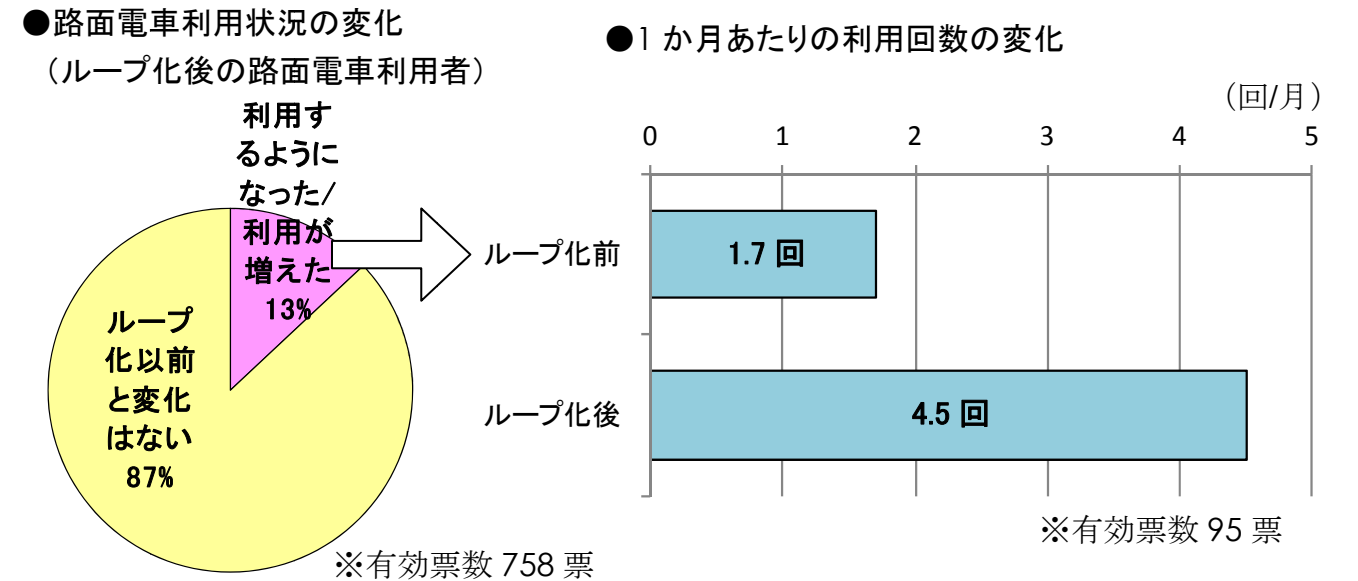
- 〇休日と比較すると、平日の方が札幌都心部停留場での乗降が多い。
- 〇平日は西 4 丁目停留場における乗降割合が高いが、休日はすすきのの停留場、狸小路停留場の利用割合が増加。

2 ループ化に関するアンケート調査

- (1) 調査日、時間等
 - ・平成 28 年 2 月 9 日 (火)、13 日 (土)、18 日 (木)
 - ・朝ピーク (8~10 時)、昼間 (11~15 時)、夕ピーク (16~18 時) の計 8 時間
 - ・対面式のアンケート調査
- (2) 結果



- 〇路面電車ループ化事業について 71%の方が魅力を実感。
- 〇ループ化区間を歩かなくてよかったことや、移動時間短縮、回遊性の向上など、ループ化による路面電車の利便性向上に対する評価が高い。
- 〇また、狸小路停留場の新設や、歩道から乗降できるサイドリザーベーションへの評価も高い。



- 〇路面電車を利用されている方のうち 13%に利用状況に変化があったと回答。
- 〇利用状況に変化があった方の月平均の利用回数が 1.7 回から 4.5 回へと増加。

3 ループ化後の乗車人員増の要因について(乗務員からの聞き取りによる考察)

※注：外回り＝時計回り、内回り＝反時計回り。停留場名を四角囲み。

- (1) 西線の利用客増
朝ラッシュ時 (7 時 30 分~8 時 20 分頃) の **西線(6 条~16 条間)**各停留場外回りの乗降客の増加が顕著。沿線のマンション建設等による住民増が要因と思われる。
- (2) 山鼻線の利用客増
朝ラッシュ時の **すすきの**~**幌南小学校前**外回りが混雑しており、平成 27 年 9 月に農林水産省北海道農政事務所が南 22 条西 6 丁目に移転したことが要因と思われる (職員数は 200 名程度)。
- (3) 地下鉄からの乗り換え
内回りでは **行啓通**、**中島公園通**からの乗車客が増えており、**狸小路**や**西 4 丁目**までの利用者が多いことから、地下鉄を利用していただお客さまが乗り換えた可能性がある。
- (4) 都心線の利用
高齢のお客様による、路面電車を利用した都心部での移動が多いように感じられる。

4 今後の調査について

これまでの調査結果は、地域の日常生活に密着した利用がなされていることや、ループ化の効果が既に表れ始めていることを示しており、今後のまちづくりや観光面での活用の可能性を感じさせるものとなっている。本項の調査は開業直後の速報値把握のため実施したものであるため、今秋以降、改めて乗降人員等の詳細な調査や分析を行い、今後の乗車人員増につなげていきたい。

札幌市の路面電車事業の沿革

札幌市の路面電車は、明治42年（1909年）に札幌区と豊平町石切山間に石材搬出のために設けられた馬車鉄道が始まりであり、明治45年（1912年）に旅客輸送に変わったものである。その後、大正7年（1918年）に北海道開道50周年を記念する北海道大博覧会の開催を契機に、札幌電気軌道（株）が路面電車事業を開業した。

札幌電気軌道（株）から札幌市が路面電車事業を譲り受け、市営として運行を開始したのは昭和2年12月1日からであり、当時の路線は全線合計で約16.3kmであった。市電の最盛期は昭和39年（1964年）頃であり、札幌市の基幹交通として路線の総延長は約25kmにもなったが、自家用車の普及や、昭和47年（1972年）の冬季オリンピック札幌大会の開催を契機とした地下鉄の開通に伴い、その主役の座を譲り、路線については昭和49年（1974年）に約8.5kmまで縮小された。その後、存廃議論を経て、まちづくりへと活用するべく、平成27年（2015年）の都心線開業により約8.9kmの環状路線とし、今日に至っている。

年	西暦	電 車 事 業
明治42年	1909年	札幌区と豊平町石切山間に石材搬出のための馬車鉄道が運転開始
明治45年	1912年	馬車鉄道による旅客輸送開始
大正7年	1918年	札幌電気軌道（株）電車事業を開業（営業キロ約5.3km、車両数24両）
昭和2年	1927年	札幌電気軌道（株）の事業を札幌市が譲り受け電気局を発足、市電営業開始（営業キロ約16.3km、車両数63両）
昭和18年	1943年	電気局を交通事業所に改称
昭和22年	1947年	交通事業所を交通局に改称
昭和39年	1964年	市電の最盛期（7系統、営業キロ約25km、車両数142両）
昭和43年	1968年	電車車両センター（車庫工場）完成
昭和45年	1970年	ワンマン電車運転開始
昭和46年	1971年	完全ワンマン化 地下鉄開業に伴う一部営業路線の廃止を開始
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1次営業路線廃止（苗穂線、豊平線、北5条線、西20丁目線） ・ 第2次営業路線廃止（西4丁目線、鉄北線、北5条線の各一部）
昭和48年	1973年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3次営業路線廃止（西4丁目線、一条線の一部）
昭和49年	1974年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4次営業路線廃止（鉄北線の残存部分）により現行の1路線（営業キロ約8.5km、車両数56両）
昭和59年	1984年	電車事業所庁舎竣工
平成6年	1994年	センターポール化工事完了（すすきの～資生館小学校前（360m施工））
平成27年	2015年	都心線開業

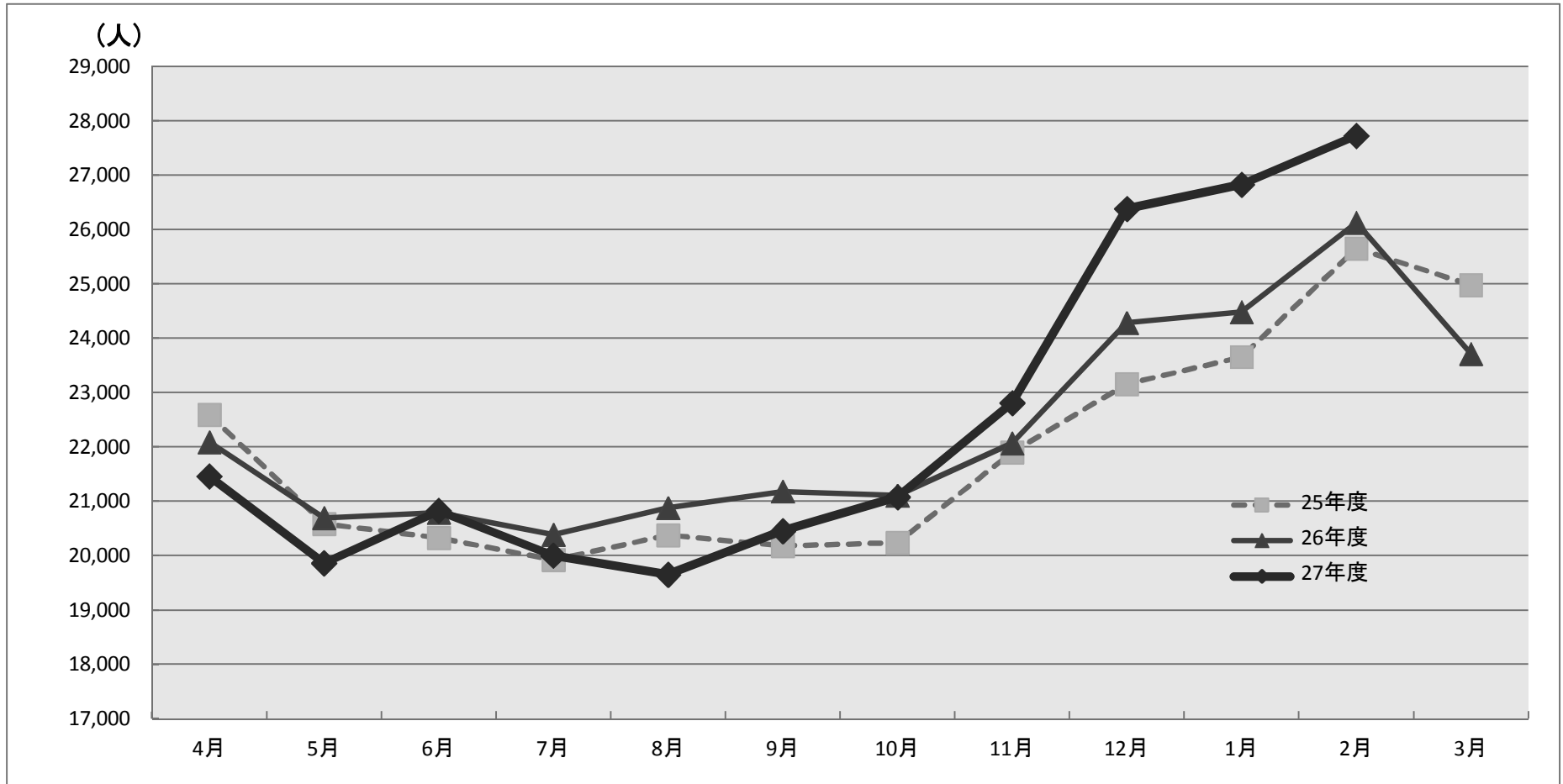
輸送概要

項目		年度					
		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度 予算	28年度 予算
営業キロ		Km 8.5	Km 8.5	Km 8.5	Km 8.5	Km 8.9	Km 8.9
停留場数		箇所 23	箇所 23	箇所 23	箇所 23	箇所 24	箇所 24
在籍車両数		両 30	両 31	両 32	両 33	両 33	両 33
走行キロ (旧算出法)		千Km 1,046	千Km 1,053	千Km 1,061	千Km 1,062	千Km 839 (1,076)	千Km 852 (1,104)
輸送人員	年間	千人 7,452	千人 7,722	千人 8,008	千人 8,137	千人 8,356	千人 8,361
	一日平均	人 20,359	人 21,157	人 21,941	人 22,292	人 22,831	人 22,907

利用促進の取組み（平成 27 年度抜粋）

	実施日等	内 容
街コン電車	5/30	貸切電車内で街コンを実施
人形劇電車	6/7	貸切電車内で人形劇を実施
路面電車の日記念事業	6/10	幼稚園児を招待して交通マナー啓発の紙芝居を読み聞かせ（貸切電車）、工場見学を実施
市電沿線お買ものラリー	8/7～9/5	沿線にある店舗で買い物をした方にシールを配布し、集めた方には市電フェスティバル会場で景品贈呈
市電フェスティバル	9/6	電車事業所及び隣接グラウンドにおいて、ミニてつくんの運行や露店・鉄道部品販売等を実施
ギャラリー電車の運行	9/11～9/30	「市営交通こども絵画展」の入賞作品の車内展示等を実施
貸切電車 DE 子育てサロン	11/11	1歳6か月以上就学前の児童とその保護者を対象に、貸切電車内で子育てサロンを実施。電車事業所見学。
雪ミク電車	11/22～3/27	人気キャラクターをラッピングした電車を運行
山鼻線利用拡大パンフレット	12/11 戸別配付	乗車率の低い山鼻線（中島公園通、行啓通、静修学園前）沿線のお客様に、ループ化によるアクセス向上を案内
装飾電車運行	12/19	交通局、市電の会、市立大学等による協議会が車内を装飾した電車を運行
貸切電車ライブ	3/27	貸切電車内でライブを実施

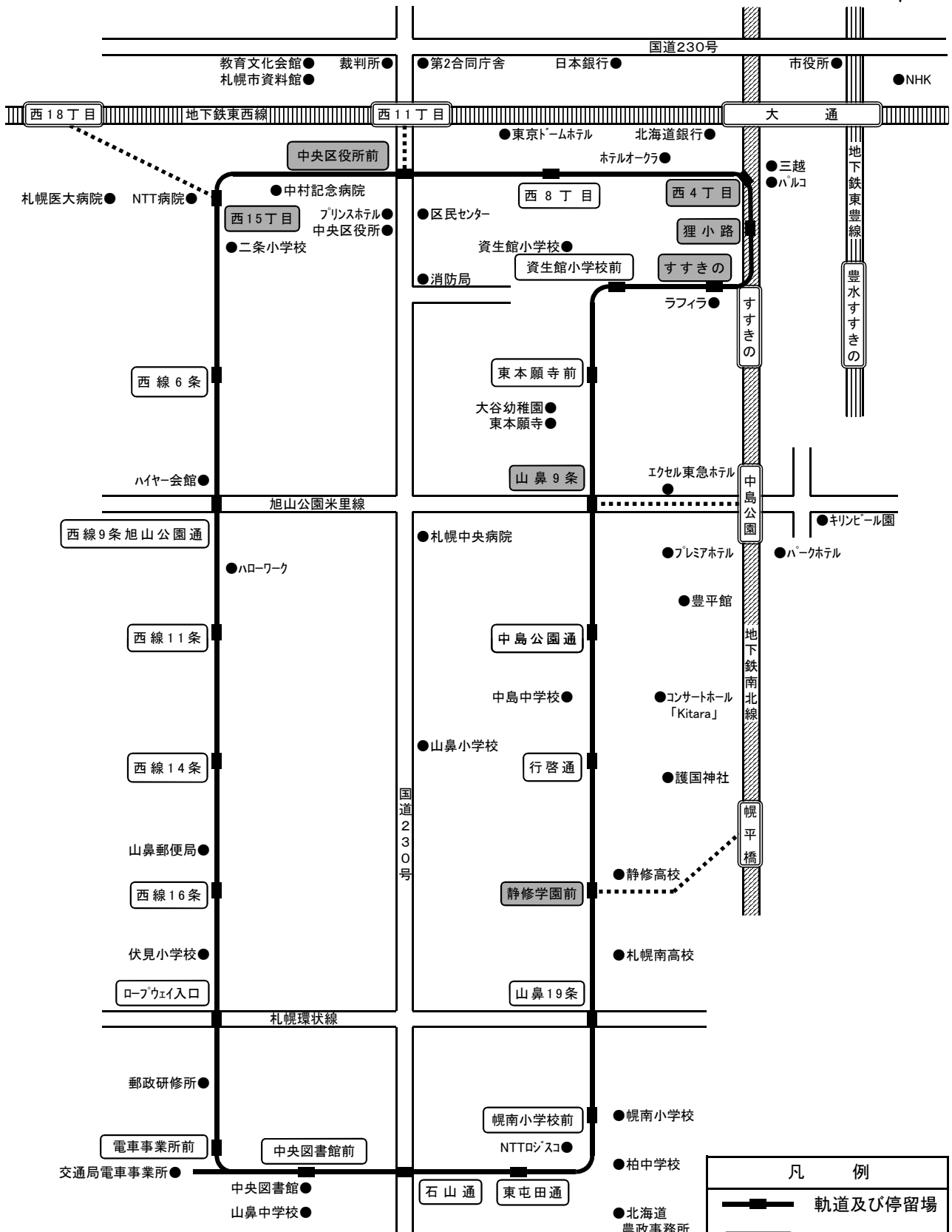
乗車人員の推移（一日平均）



(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
25年度	22,594	20,586	20,328	19,924	20,374	20,180	20,237	21,900	23,154	23,655	25,650	24,977
26年度	22,084	20,695	20,791	20,384	20,876	21,181	21,103	22,065	24,279	24,480	26,126	23,712
前年同月比	△ 2.3%	0.5%	2.3%	2.3%	2.5%	5.0%	4.3%	0.8%	4.9%	3.5%	1.9%	△ 5.1%
27年度	21,459	19,861	20,825	20,000	19,652	20,451	21,077	22,809	26,381	26,826	27,723	
前年同月比	△ 2.8%	△ 4.0%	0.2%	△ 1.9%	△ 5.9%	△ 3.4%	△ 0.1%	3.4%	8.7%	9.6%	6.1%	

路線図



凡 例	
	軌道及び停留場
	停留場名
	乗継指定停留所

※西4丁目・狸小路・すすきのの各停留場は地下鉄大通・すすきの・豊水すすきのの各駅のいずれでも乗継可能